（様式－3）

再発防止対策報告書

東北支部

発生日時	令和 6年　12月　3日（火曜日）　9時　20分頃							天候	雨	
災害の程度	死亡　名		負傷　1名		職種 仮設作業員		年令 21才		経験年数　1年	
工事の種類	調査 測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・ 落下	崩壊・倒壊	はさまれ・ 巻き込まれ	切れ・ こすれ	感電	その他		
原因	作業準備 の不良	作業方法 の不良	工具防具 の不良	電気工作 物の不良	作業者 の過失	共同作業 者の過失	その他			

災害の状況

［件　　名］　仮設撤去中のバックホウによる激突災害

［作業内容］　仮設撤去作業中

［発生状況］　バックホウオペレータがバックホウで鉄板を吊りあげた状態で，鉄板の下に置く土のうの位置を座席から中腰になり被災者に指示した。被災者が土のうを置き退避を始めた後，オペレータが座席に座り直す際に雨合羽の袖が操作レバーに引っ掛かり，吊っていた鉄板が動いて被災者の右足首にあたった。

［被災程度］　右足首開放骨折 ，外くるぶし切創，前歯１本折損，唇切創

［服装・装備］　作業服上下，安全靴，保護帽，手袋，雨合羽

原因及び対策

［発生原因］

＜人的要因＞

①オペレーターは油圧ロックレバーを使用，またはエンジン停止をしなかった

②被災者はバックホウの稼働中に旋回範囲に入った

③オペレーターは合羽の外側のマジックテープを閉めていなかった

④被災者は吊った鉄板の下に土嚢を置こうとした

＜管理的要因＞

①作業班長は被災者の動きが見えていなかった

＜物的要因＞

①旋回範囲を明示していなかった

［再発防止対策］

＜人的要因＞

①バックホウの旋回範囲に作業員が入る場合は，オペレーターは油圧ロックレバーの使用，またはエンジンの停止を徹底する。

②操作時に姿勢を変えるときは，油圧ロックレバーを使用し，不測のアーム作動を防ぐ。

③バックホウの操作中に作業員どうしで連絡を取る際は，通信機器を使用する。

④油圧ロックレバーの使用が確認できるまでは重機の旋回範囲に入らないことを徹底する。

⑤操作レバーに引っ掛からない服装であるか作業前に班長が確認する。

⑥鉄板を運搬する先にあらかじめ枕木を準備し，吊った鉄板に近づく状況を作らないようにする。また，手直しが必要になった場合も鉄板を確実に離してから行う。

⑦現場職員はクレーン作業（油圧ロックレバー，旋回範囲，つり荷の下への立入禁止等）のルールについて教育を行う。また，経験年数の浅い作業員については教育内容の理解度確認とフォローを行う。

	＜管理的要因＞
	①作業班長は必ず作業員を確認できる位置で作業を監視する。一人で監視できない
	場合は監視者を配置する。
	＜物的要因＞
	①重機作業前に旋回範囲を全員で確認する。

（注）1.「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。

2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。
特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図

発生状況

・オペレーターは，鉄板を吊りあげた。
・オペレーターは，座席から中腰になり土のうを置く位置を被災者に指示した。
・被災者は，吊られた鉄板の下に土のうを置いた。
・オペレーターは，被災者に退避するよう声がけした。

①オペレーターは，座席に座り直す際に雨合羽の袖を操作レバーにひっかけた。

・バックホウが操作レバーの動きに連動し旋回した。

②吊っていた鉄板が動き，被災者の右足首にあたった。

③被災者は，転倒して地面の敷き鉄板に顔をぶつけた。